

【泉区】平成 31 年第 1 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	31 年 2 月 4 日（月） 午後 2 時 00 分 ～ 午後 3 時 30 分
場 所	泉区総合庁舎 4 階 消防署会議室
出席者	<p>【座 長】麓 理恵 議員</p> <p>【議 員：3 人】梶村 充 議員、源波 正保 議員 横山 勇太朗 議員</p> <p>【泉 区：37 人】額田 樹子 区長、高橋 寛 副区長 松浦 淳 福祉保健センター長 中村 拓 福祉保健センター担当部長 山根 好行 土木事務所長 森田 清 泉消防署長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 平成 31 年度泉区個性ある区づくり推進費予算案について</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 定住・転入促進事業について</p> <p>(2) 深谷通信所跡地にかかる今後の取組について</p> <p>(3) 横浜市松風学園の再整備について</p> <p>(4) その他</p>
発 言 の 要 旨	<p>1 平成 31 年度泉区個性ある区づくり推進費予算案について</p> <p>梶村議員：収入証紙が来年度から廃止になり、廃止になってからもしばらくは使えるということだが、大量に買い込んでいる人がいることが危惧されるかどうか。</p> <p>高橋副区長：収入証紙の廃止については、収入証紙条例の廃止議案が議決され次第、区民に P R していく。</p> <p>梶村議員：直通線開通にあたって、相鉄では各駅のリノベーションを進めているほか、地域住民とともに魅力ある地域づくりのための取組を行っているところもある。定住・転入促進事業や相鉄・J R 直通線開通関連事業の実施にあたっては、地域独自の取組や地産地消など、泉区の特徴</p>

を取り入れつつ、相鉄と連携しながらPRを支援していったらどうか。
長井区政推進課長：泉区の魅力を発信していく中で、相鉄とも連携をとりながらPRに取り組んでいく。

梶村議員：こども交通安全対策事業について、港南区の事故なども受け、スクールゾーン対策協議会で抜本的に見直しを出来る所はしていこうとしている。本当に困っている地域はあるため、予算や地権者との調整など、すぐに解決できず時間がかかる部分もあるが、進めていってほしい。

洞澤土木事務所副所長：スクールゾーン対策協議会については、土木事務所も入っており、そこで得た情報を道路局と連携して道路改良事業等につなげ、少しでも改善していければと考えている。一方、現在実施している東中田小学校周辺の整備においては、用地交渉を進め、順次仮舗装を行うなど進めていきたい。

梶村議員：子どもの安全安心に関わることのため、各区からも道路局にあげていってほしい。

梶村議員：道路整備事業について、中田さちが丘線の整備が32年度完成に向けて進んでいるのはよいが、権太坂和泉線と瀬谷柏尾道路の3つの道路が重なっている箇所は、通行に難がある。このボトルネックの整備が完了すれば泉区内の通勤道路としてはよくなると思う。権太坂和泉線のボトルネックの区域はどうなるのか。33年3月完成となるのか。

洞澤土木事務所副所長：現在の道路渋滞状況を考慮すると、中田さちが丘線の岡津の農協前の交差点がボトルネックのため、まずは中田さちが丘線の未開通区間を整備していきたい。32年度完成に向けて道路局と連携して取り組んでいく。権太坂和泉線の残りの地区は、用地取得も残っており、並行して順次取り組んでいく。

梶村議員：しっかりやってもらうようお願いしたい。

源波議員：泉区公式インスタグラムを開設されたということだが現在の状況はどうか。

長井区政推進課長：昨年の秋に開設し、現在260フォローとなっている。

更新は週に3回程度行っており、ハッシュタグをつけてもらった方の写真も承諾を得て掲載している。

源波議員：地域協議会の活動等はどのように事業に反映されているのか。

栗竹地域力推進担当課長：30年度前半の地域協議会では、定住・転入をテーマに課題検討していただき、若者の区政への関わりについてご意見をいただいた。地域力支援事業の中で、地域課題の解決に向け、若年層の意見を取り入れる取組を実施していく。他の自治体の事例も研究しながら、地域協議会との連携方法も含め、どのような仕組みがよいか検討していく。具体化した段階で、対外的に周知していきたい。

横山議員：ひきこもり等の専門相談の実施について、ひきこもりの長期化により40、50代になる人も出てくるが、ひきこもりの定義について、行政はどのように捉えているのか。

木下学校連携・こども担当課長：年齢でいうと39歳までの方を対象に、何らかの困難を抱え、社会参加が進んでいない方をひきこもりとして捉えている。

横山議員：いつから窓口を設けているのか。

木下学校連携・こども担当課長：区役所では昨年度から、月2回水曜日の午後の時間帯に相談窓口を設けている。

横山議員：利用状況はどうなっているか。

木下学校連携・こども担当課長：相談件数は、年間で60件程度となっている。（※後に件数を修正）

横山議員：解決に向けた進展があったなど、具体的な成果はあるか。

木下学校連携・こども担当課長：横浜市では、困難を抱えている若者の相談窓口としてユースプラザなどを設けているが、対象者は社会生活に出ていけないという難しさを抱えていることから、そういった専門機関につながりにくいという問題がある。具体的な成果ということではないが、区役所の窓口の方がより身近ということもあり、少しずつ相談が増えているという状況がある。また、まずは支援者からの協力を得ていくため、困難を抱える若者への理解を深めるセミナーを各区1回実施しており、31年度も引き続き実施していく。支援者を通じて地域の中の情報を集め、困難を抱える若者への直接的な支援に近づけていきたいと考え

ている。

横山議員：問合せは本人、親族、支援団体のどこからが多いのか。

木下学校連携・こども担当課長：家族からが多くなっている。

源波議員：ひきこもりのまま高齢化し、更に社会参加が困難になると、関係者も疲弊してしまう。身近で相談できるようになったのはプラスだが、早い段階で専門家に相談することは極めて重要であり、更に相談しやすい環境づくりが必要だと思う。長野県ではSNSを使った相談を実施したら、電話相談の倍の相談があった。この事業も、なお一步踏み込んで、若い人が利用しやすいSNSを取り入れるなど工夫していくことが大事だと思う。意見として伝えたい。

木下学校連携・こども担当課長：ひきこもり期間が長くなるほど困難が増すため、小・中学校において不登校等のお子さんの支援として、専任の教諭をおく取組も行っている。今後とも関係機関と連携し、区として出来ることをやっていきたい。

木下学校連携・こども担当課長：先程の引きこもりに関する相談件数に誤りがあったため訂正をしたい。29年度は19件、30年度は12月末時点で10件となっている。

2 その他

(1) 定住・転入促進事業について

梶村議員：泉区には、相鉄沿線と市営地下鉄沿線があるが、相鉄沿線は相鉄が活性化に取り組んでいたりするが、市営地下鉄沿線の中田中央商店街などでは店舗が減ってきている現状がある。車を停めて店に寄ることができないなど原因があると思う。しかし、交通量の多い長後街道沿いだからこそ、少し工夫することで何かよいアイデアが出るのではないかと。地域とも相談しながらそろそろ考えていく必要がある。時間をかけて考えていてもらいたい。

額田区長：市営地下鉄沿線については、交通局としてみるべき駅も多く、なかなか相鉄と同じような取組ができないのが実情となっている。一方で、中田の商店街の方からメンバーが減ってきていると聞いている。商店街振興支援事業として31年度に新たな取組も計画しているが、抜本的な方策も検討していく必要があると思う。時間がかかると思うが引き

続き検討していく。

梶村議員：市営地下鉄の事業者は交通局だが、公営企業でも取り組めることはあるのではないかと。よく相談しながらやっていってもらいたい。

源波議員：パンフレットなど、とても素晴らしいものができて、泉区に住んでみたいと思わせるものになっていると思う。泉区は福祉のまちと言われているので、中田の宮の前テラスの多世代交流なども、盛り込んでもらえるとよいと思う。高齢者の方が子供たちとの交流で元気になったという話も聞いている。次に作る時に検討してもらいたい。

長井区政推進課長：インスタグラムでも宮の前テラス取材した写真を掲載している。パンフレットの改訂作業を進める中で、ホームページ等への掲載も含め考えていきたい。

梶村議員：休日急患診療所・夜間急病センターについて、院内処方をするという話を聞いている。なぜ院外ではなく、院内処方にするのかという苦情が出ている。

椎葉福祉保健課長：以前、院内処方の件は薬剤師会からも話を聞き、医師会に伝えたことはある。詳細を伺っていないが、夜間は薬局も営業していないため、そういったことも考慮しているのではないかと考えている。

横山議員：農産物の直売所について、直売所マップには、どのような基準で掲載しているのか。

長井区政推進課長：直売所マップは、希望されている方を載せている。一部掲載されていない所があることについては、生産者に対するPR等も含めて課題と考えており、検討していきたい。

横山議員：掲載の有無ではなく、掲載されている内容について、例えば無農薬野菜の表記や、直売所という表現がその意味の通りとなっているのかといったことについて、疑問や不公平感を感じている人がいる。直売所に対して、統一した旗の使用やステッカーの配付など、認定とまではいかなくても統一感を出していてもよいのではないかと。

長井区政推進課長：表記については、来年度のマップ発行にあたっての更新作業の中で考慮して編集していきたい。

横山議員：根気のいる作業になると思うがよろしくお願ひしたい。

(2) 深谷通信所跡地にかかる今後の取組について

梶村議員：少年野球で利用する際に硬式野球のボールが囲障区域に入り込んでしまう。鍵の管理などにより出入りできるようにならないのか。

村上政策局基地対策課担当課長：財務省横浜財務事務所と相談しているが、鍵をお貸しすることは難しいと伺っている。

梶村議員：フェンスは外せないのか。

村上：中にまだ老朽化した施設があり、財務省が管轄しているが、安全確保のため外すことができないと伺っている。

源波議員：新たな多目的広場とは何か。

村上政策局基地対策課担当課長：自主整備・自主管理を条件に、より幅広い利用を図る観点から、災害時にも利用できる広場を検討しており、2ヘクタール程を国から追加で借りることを予定している。

(3) 横浜市松風学園の再整備について

麓議員：現在の利用されている人数について、工事の期間中は増減させないということによいか。

上條健康福祉局障害支援課長：入所定員は94人だが、実際の利用者は現在入所81人、通所11人となっている。これから工事に入るため大きな増員は考えにくいですが、市内の入所のニーズもあるため、必要最小限の対応はしていきたい。

麓議員：A棟については、解体せずに改修を行うということによいか。

上條健康福祉局障害支援課長：ご指摘のとおり。

源波議員：通所利用者の方が丁寧な説明に感謝していた。

横山議員：道が狭いため、工事車両の通行や時間帯など、気を付けて工事してもらいたい。

梶村議員：道路が私道だと思うので、破損等がある場合は、確実に対応してもらいたい。

上條健康福祉局障害支援課長：昨年3月に地元の説明した際にも意見をい

	<p>ただいており、それを踏まえて計画を作っていく。丁寧に説明しながら進めていきたい。</p> <p>(4) その他</p> <p>梶村議員：平成 31 年度からの消防署の機構改革について、より体制が強化されるのは大変良いことだと思う。是非良い体制にしてほしい。</p> <p>麓議員：区役所の駐車場の件だが、場内の電光掲示板が空となっていたため、公会堂側に駐車しようと移動すると既に空きがなかった。区役所側に戻ろうとすると、進入禁止と表示があり戻ることができず退場するしかない。電光掲示板と状況があっていないのではないか。一度確認してもらいたい。</p> <p>千田総務課長：調査し、どのような対応が可能か検討する。</p> <p>梶村議員：泉公会堂の工事期間はいつからいつまでか。</p> <p>丸山地域振興課長：工事期間は平成 31 年度の 4 月 1 日から 3 月 31 日までの 1 年間となり、泉公会堂は休館となる。</p> <p>梶村議員：泉公会堂は使用できなくなるのか。</p> <p>丸山地域振興課長：使用できなくなる。指定管理者は常駐だが、天井工事と座席の張替えに加えて、機械設備等も含めて総合的な工事を実施する。</p> <p>梶村議員：駐車場は使用できるのか。</p> <p>丸山地域振興課長：使用できるが、工事車両がどの程度のエリアを占有するか今後市民局と建築局の調整となる。</p> <p>梶村議員：工事業者はまだ決まっていないのか。</p> <p>丸山地域振興課長：決まっていない。</p>
備 考	